

Title	都市銀行におけるマネージメント・コントロール・システム - 支店管理を中心にして -
Sub Title	
Author	下野利明(Shitano, Toshiaki) 伏見多美雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1980
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001980-0086

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	下野利明	主査	伏見多美雄	教授
	(株式会社 協和銀行)	副査	関本昌秀	教授
所属ゼミナール	伏見多美雄 研		柴田典男	助教授

都市銀行におけるマネジメント・コントロール・システム — 支店管理を中心にして —

私は、都市銀行の収益力が低下している現状から、全社的な収益性を高めるような支店の管理体制の必要性を感じた。そのために、本論文では、マネジメント・コントロール、経済性分析、管理会計などの理論を都市銀行にあてはめて、上記の目的に役立つと思われるいくつかの考えを導き出した。

第一に、各支店がそれぞれの目標を達成するように努力することが、全社的な目標の達成に寄与する仕組みになるように、全社目標を支店目標へブレイクダウンするプロセスを検討した。その際に、特性要因図、因果関係図、XYZ連関分析といった分析手法を活用した。

第二に、経営資源のよりよい配分をするために必要な情報を各支店から集める目的と、様々な地域市場を担当している支店長の目標達成意欲を高めるという目的の両方を満たすために、支店が全社に貢献する利益と支店長が責任を負う利益を分けて考えた。そのために、従来調達コストの中に1本化してとらえられていた経費を、活動コストと基礎コストおよび戦略開発コストに分けてとらえた。さらに、トップ・マネジメントが決定する様々な政策、たとえば、本部(本社)と支店の間を動く資金の利率、本部経費の配賦基準、各支店における余剰・不足資金の算定基準、様々な経営資源(人材・店舗特)の測定基準等についても、上記の2つの目的を満たすよう検討した。